

令和8年度 学校要覧



国立大学法人
滋賀大学教育学部附属特別支援学校



〒520-0002 大津市際川三丁目9-1

TEL 077-522-6569

FAX 077-526-2279

<https://www.edu.shiga-u.ac.jp/ft/>

1. 学校経営方針

(1) 教育目標

「生きぬく力をめざして」

- たしかに 見通しがたしかにもてる子（毎日の生活の積み重ねの中で）
- まろやかに 人を思いやるまろやかな子（仲間とのふれあいの中で）
- たくましく 心もからだもたくましい子（心とからだのリズムを整えて）

(2) 滋賀大学教育学部・教職大学院との連携・協働による本校の使命

①<実践的研究の推進>

- ◎本校の創立 50 周年記念式典（R9）の年に研究発表大会を開催し、研究のまとめを報告する
昨年度の調査等研究を基盤にし、発達の視点や教師間の対話を大切にされた実践研究の推進と発信

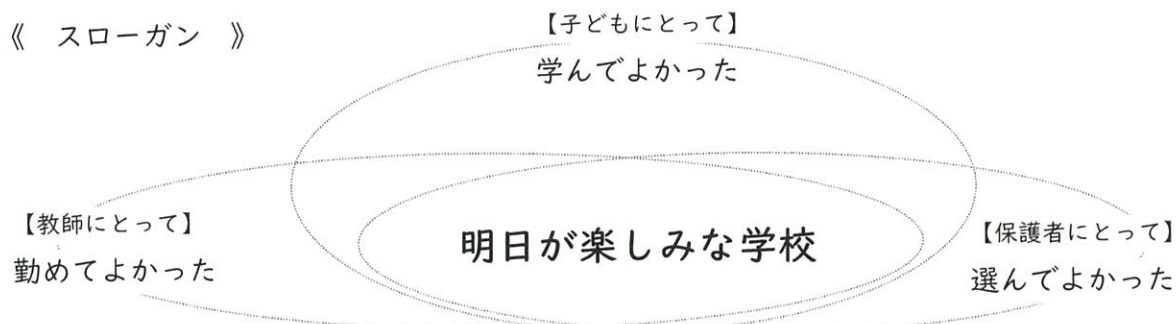
②<質の高い教育実習> 教員をめざす教育実習生への指導

- ◎教育実践力を身に付けた教員の養成を行う
 - ・大学や教職員大学院との連携を密に行い、教育実習の運営、指導方法の改善に努める
 - ・教育実習の効率的かつ適正な運用を行い、その充実とさらなる実習生の資質向上を目指す。

③<教員としての資質と専門性の向上>

- ◎特別支援教育のセンター的機能の発揮と専門性の向上
 - ・開かれた学校として、特別支援教育推進についての情報発信を積極的に行う
 - ・地域の校園等との連携や交流を深め、ニーズに応じたセンター的機能を発揮する

《 スローガン 》



(3) 本年度の目標

①生きぬく力の育成

- ・小中高一貫した教育の推進
- ・特色ある学校、学部経営づくり
- ・キャリア教育の視点を大切にした取組（12年間を見通したカリキュラムの作成と実践）

②ウェルビーイングな学校づくり

- ・児童生徒の幸福な将来につながる資質向上と職員の安心安全な職場環境の確保
- ・校務運営組織の効率的な運用と働き方改革の推進

③学習計画の作成、集積

- ・「特別支援教育のセンター的機能」を発揮するための実践を蓄積
- ・チャレンジプランの有効活用

④ダイバーシティ教育体系への積極的移行 <家庭、地域、関係機関との連携>

- ・児童生徒の社会参加に向けた教材開発、地域資源の積極的活用、附属校園や地位校との交流の特進
- ・保護者との連携強化（ヒューマンパワーの積極的導入）

⑤教師力の更なる向上

- ・子どもの成長や発達、心に寄り添い必要な時に必要な指導支援を行う教育実践
- ・学部間等での積極的な情報共有や、共通理解を図りながら迅速かつ丁寧な連携

2. 沿革

昭和41年 4月 滋賀大学教育学部附属小学校に特殊学級「比良組」1学級開設

昭和42年 4月 「比良組」1学級増で計2学級

昭和43年 4月 滋賀大学教育学部附属中学校に特殊学級「D組」1学級開設

昭和43年 4月 特殊学級校舎起工 11月竣工

昭和44年 4月 「D組」1学級増で計2学級

昭和45年 4月 「D組」1学級増で計3学級

昭和50年 4月 「比良組」1学級増で計3学級

昭和53年 4月 滋賀大学教育学部附属養護学校として発足 小学部3学級 中学部3学級

昭和53年 11月 養護学校校舎起工

昭和54年 4月 高等部新設(1学級)

昭和54年 9月 大津市際川三丁目9-1に校舎新築、移転

昭和55年 4月 高等部1学級増で計2学級

昭和56年 4月 高等部1学級増で計3学級

昭和57年 6月 プール竣工

昭和59年 3月 第1回あしあと・てあと展

昭和59年 11月 第21回放送教育全国大会滋賀大会

昭和62年 11月 創立10周年記念式典

昭和63年 3月 第2回あしあと・てあと展

昭和63年 4月 教員定数1名増員

平成元年 11月 生活訓練施設「にじの家」竣工

平成2年 6月 第1回障害児教育を考える会
「自閉症児の教育について
…今だいじにしたいこと…」

平成3年 3月 第3回あしあと・てあと展

平成3年 6月 第2回障害児教育を考える会
「自閉症児の教育について
…今困っていること…」

平成4年 6月 第3回障害児教育を考える会
「子どもの育ちをみつめる」

平成5年 6月 第4回障害児教育を考える会
「かず・ことばの指導について」

平成5年 11月 第4回あしあと・てあと展

平成5年 11月 文化祭「トラや帽子店コンサート」開催

平成6年 6月 第5回障害児教育を考える会
「障害児教育における授業と子どもを語る」

平成6年 7月 運動場・プレイコート改修工事・

校舎外壁工事

平成7年 6月 第6回障害児教育を考える会
「障害児教育における授業と子どもを語る…一人ひとりを大切にしたい授業づくり…」

平成8年 4月 情報教室整備

平成9年 3月 第5回あしあと・てあと展

平成9年 11月 創立20周年記念式典

平成11年 2月 第7回障害児教育を考える会

平成11年 11月 第6回あしあと・てあと展

平成11年 12月 第8回障害児教育を考える会

平成12年 3月 体育館トイレ竣工

平成13年 3月 新会議室・第2教官室竣工

平成14年 8月 第7回あしあと・てあと展

平成16年 4月 国立大学法人化

平成17年 4月 学習・発達支援室開設
教員定数1名増員

平成17年 11月 第8回あしあと・てあと展

平成19年 4月 養護学校から特別支援学校へ校名が変更

平成19年 11月 創立30周年記念式典

平成20年 11月 第9回あしあと・てあと展

平成22年 3月 空調設備・織物教室改修

平成24年 3月 校舎床全面改修

平成28年 2月 正門付近フェンス改修

平成28年 8月 大型バス入構用正門改修

平成29年 12月 創立40周年記念研究発表大会、平成30年2月記念文化のついで

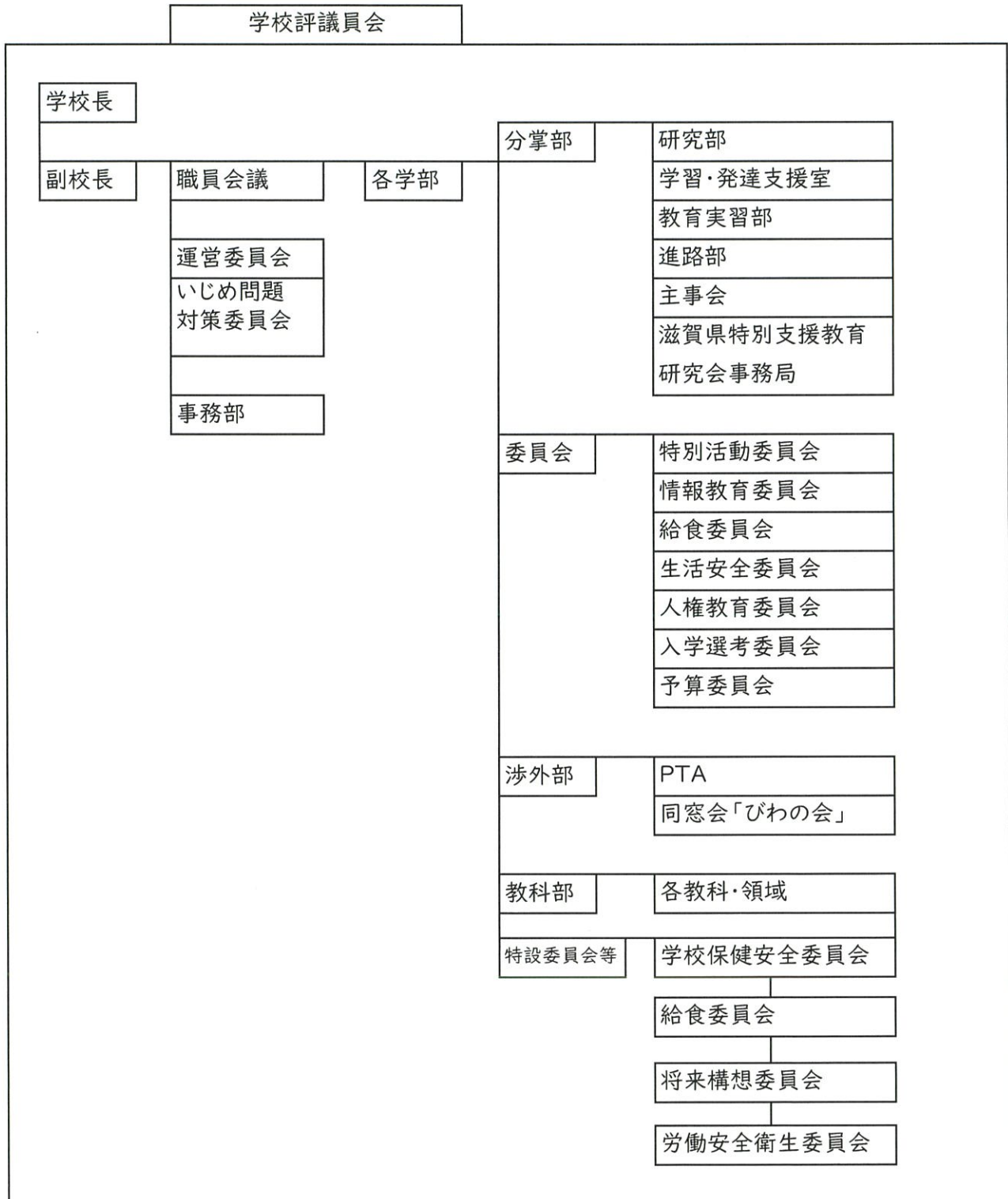
令和3年3月 校舎内トイレ改修

令和6年3月 体育館・中・高等部棟改修

令和7年3月 小学部棟改修・エレベーター設置

3. 学校運営組織

校務分掌組織



4. 児童・生徒の状況

(1) 在校児童・生徒数

令和8年度4月現在

学部	小学部							中学部				高等部				合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	小計	1年	2年	3年	小計	1年	2年	3年	小計	
男子	2	1	2	2	2	0	9	3	4	5	12	7	5	6	18	39
女子	1	2	1	1	1	0	6	3	2	1	6	2	3	2	7	19
合計	3	3	3	3	3	0	15	6	6	6	18	9	8	8	25	58

(2) 通学区域

学部	小学部	中学部	高等部	合計
大津市	15	16	18	49
草津市	0	1	4	5
栗東市	0	0	0	0
守山市	0	1	0	1
野洲市	0	0	1	1
高島市	0	0	2	2
合計	15	18	25	58

(3) 卒業生の進路

進路先	卒業年度別		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
	学部別		中学部	高等部	中学部	高等部	中学部	高等部
	卒業生数		5	8	6	8	6	9
進学	本校高等部		5		6		5	
	他校高等部							
	一般高校							
	大学・専門学校等							
就職	(企業等一般事業所)			1		2		1
	訓練校等							
福祉的 事業所	自立訓練(機能訓練)			3		2		
	自立訓練(生活訓練)					1		1
	就労移行支援					1		2
	就労継続支援 雇用(A型)							
	就労継続支援 非雇用(B型)			2		1		3
児童入所施設	生活介護(通所)			2		1		2
	その他						1	

5. 教育課程

(1) 本校教育課程の構造

学校教育目標

学部目標

	教科等を合わせた指導	各教科の指導	外国語	特別の教科	領域の指導 特別活動 自立	総合的な学習の時間
小学部	小学部タイム(遊びの指導) 生活単元学習 日常生活の指導 (にじの家合宿舎)	図工 音楽 からだ みる・きく・はなす ／ことば・かず せいかつ	英語	道徳	学校行事 みんなの時間 学級活動 学部行事 自立活動	6年中学部体験学習 交流および共同学習
中学部	作業学習 生活単元学習 日常生活の指導 (にじの家合宿舎)	保健体育(性教育) 家庭 美術 音楽 理科 数学 国語 社会 書	英語	道徳	学校行事 みんなの時間 生徒会活動 学級活動 学部行事 自立活動	就労体験学習(3年生) 高等部体験学習(3年生) 交流および共同学習
高等部	生活単元学習 日常生活の指導 (にじの家合宿舎)	理科 社会 家庭 保健体育(性教育) 美術 音楽 数学 国語・書 職業	英語	道徳	学校行事 みんなの時間 生徒会活動 学級活動 学部行事 自立活動	チャレンジタイム 交流および共同学習

(2) 学部経営および教育課程の概要

① 小学部

◇ 学部教育目標および育てたい姿

自分1人でもがんばれる、みんなともがんばれる

(1) 身の回りのことができる

- ・生活リズムを整えることができる。
- ・自分のことは自分でしようとする気持ちをもつ。
- ・子ども一人一人の状態に合わせて将来必要となるライフスキルを身につける。

(2) 人との関わりにより生活を豊かにできる

- ・先生や友だちの存在に気づき、興味をもてる。
- ・先生や友だちと一緒に楽しみながら自分の好きな遊びや活動を見つけられる。
- ・自分の思いをもち、自分なりの方法で先生や友だちに伝えられる。
- ・先生や友だちを支えとして、初めてのことや苦手なことにも挑戦できる。

(3) 力いっぱい活動できる

- ・夢中になって遊んだり、活動に向かったりする。
- ・いろいろな場面で自分の力が発揮できる。
- ・いろいろな遊びや活動を通して、姿勢・運動・動作の土台を作る。
- ・思い切り活動し、健やかな体を作る。



◇ 週時程

クラス	月			火			水			木			金			
	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	
8:50	登校時間															
9:10	更衣・排泄・片付け															
9:30	朝の運動															
9:50	朝の会															
10:10	休憩時間															
10:30	せいかつ (さんぽ)	みる きく はな す		ことば かず		図 工			みる きく はな す		ことば かず		せい かつ	せい かつ	せい かつ	
11:10		休憩時間							休憩時間							
11:30		せいかつ		しごと		せいかつ		しごと		せいかつ		しごと				
		1		3~5年		1		3~5年		1		3~5年		1	2	3
12:00	給食															
12:40	休憩時間					休憩時間			休憩時間							
						更衣・排泄・片付け										
						帰りの会										
13:30	からだ			小学部タイム						せい かつ	せい かつ	せい かつ	おんがく			
14:10	更衣・排泄・片付け			更衣・排泄・片付け						更衣・排泄・片付け			更衣・排泄・片付け			
14:30	帰りの会			帰りの会						帰りの会			帰りの会			
15:00																
下校時刻	15:00			15:00			13:30			15:00			15:00			
クラス	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	1	2	3	

-② 中学部

◇ 学部教育目標および育てほしい姿

学部教育目標

仲間とともに生き生きと取り組む

社会人として生活するための基礎的能力を養う		
社会生活に必要な知識・技能を身につける ・生活に必要な知識・技能を理解し活用しようとする。 ・主体的に切り拓こうとする態度及び習慣を養う。 ・目的に向けて活動する中で達成感を味わう経験を重ねる。	認め合い、支え合い、高め合う仲間をつくる ・多様な集団編成の中で、人間関係を広げる。 ・自分の思いを伝えるなど相手の思いに気づいたりして気持ちを調整できる ・仲間と一緒に活動する中で様々な思いや感情を共有する。	健康的な生活を送り、たくましい心と体を培う ・健康で、調和のとれたたくましい心と体を作る。 ・最後まで取り組もうとする意欲とやり抜く体力を身につける。



◇ 週時程

	月	火	水	木	金
登校時刻	8:45~9:00 (8:40~9:20)				
9:00 ~ 9:20	0	日常生活の指導(更衣/荷物整理)			
9:20 ~ 9:35	1	日常生活の指導(朝の会)			
9:45 ~ 10:15	2	自立活動(トレーニング)	音楽/体育 9:45~10:40	自立活動(トレーニング)	自立活動/道徳(トレーニング)
10:30 ~ 11:05	3	国語・数学/家庭/美術	音楽/体育 10:55~11:50	国語・数学/家庭/美術	国語・数学/家庭/美術
11:15 ~ 11:50	4			国語・数学/家庭/美術	国語・数学/自立
12:00 ~ 12:15	5	日常生活の指導(配膳活動)			
12:15 ~ 12:50	日常生活の指導(給食)				
13:00 ~ 13:30	昼休み		日常生活の指導(更衣/帰りの会)	昼休み	
13:30 ~ 13:40	6	作業学習/生活単元学習/総合的な学習の時間 学級活動	日常生活の指導(掃除)	日常生活の指導(掃除)	
13:45 ~ 14:40	7 8	日常生活の指導(帰りの会)	書/英語/理科・社会	生活単元学習/作業学習/総合的な学習の時間 学級活動	作業学習/生活単元学習/総合的な学習の時間 学級活動
14:40 ~ 15:00	8			日常生活の指導(更衣/荷物整理)	日常生活の指導(更衣/荷物整理)
15:05 ~ 15:15	9		日常生活の指導(帰りの会)	日常生活の指導(帰りの会)	
下校時刻	15:00	15:15	13:30	15:15	15:15

④特別活動

1. みんなの時間

赤団・青団・黄団の縦割り集団で小学部・中学部・高等部の児童生徒の相互交流を図り、幅広い人間関係を育てたり、多様な楽しみを体験したりする機会を持つことをねらいに活動している児童・生徒会活動です。取り組みとしては、団を意識して、みんなが楽しめる活動を年数回行っていきます。

2. 児童・生徒会活動

リーダー性の育成等をねらいとし、主に以下のような活動をしています。

- ◇みんなの時間の企画・進行
- ◇運動会や文化祭に向けての取り組み
- ◇執行部会

6. 研究

校内研究

令和元年度からのあゆみ

① 令和元年度

<生きぬく力の育成>

ともに向上心を持ち続ける子どもを育む授業実践研究
～心が動く授業から深い学び～

② 令和2年度～

<生きぬく力の育成>

対話を通して学び深める授業づくり
～「なりたい自分」になるために～

③ 令和4年度～

子ども理解に基づいた授業実践研究
～“発達の視点”と“教師間の対話”を授業づくりの柱として～

④ 令和7年度～

50周年事業 過去から未来へ 現在を捉え直す校内研究

昨年度まで大切にしてきた“発達の視点”と“教師間の対話”を研究の柱として、日々の教育活動や授業実践を行う。また、令和9年度に開校50周年を迎えるにあたり、障害児を取り巻く歴史や本校の歴史、研究を振り返ることで、現在、そして今後の教育について考える機会とすることを目指す。

7. 教育実習等の概要

(1) 教育実習

教育学部の附属学校として、教職を志す学部、専攻科、大学院生等の教育実習生を受け入れ、指導しています。実習生は大学で学んだ知識や技能、理論をもとに、障害のある児童・生徒と直接関わります。附属学校教員の指導のもとで、教科指導、学級経営などの実際を体験することで、特別支援学校の教員になるための基礎や実践力を養います。

(2) 介護等体験Ⅰ・Ⅱ

小学校または中学校の普通免許状を取得しようとする滋賀大学の3回生が、障害児者に対する介助や交流等の体験を通して、人権尊重の教育を体験します。「個人の尊厳及び社会連帯の通念」に関する認識を深めさせ、資質の向上や障害児の理解啓発の推進を図ることを目的としています。体験Ⅰでは、日常の学校生活や授業への参加を通して子どもと触れ合います。体験Ⅱでは、行事等への参加を通じた子どもへの関わりや、教員に必要なとされる業務の補助などにおいて、間接的に関わる活動にも取り組みます。

8. 学習・発達支援室

学習・発達支援室は、附属四校園の特別支援教育推進や地域での特別支援教育のセンター的機能を発揮することなどを目的として設置されています。滋賀大学教育学部障害児教育コース・教職大学院と連携し、特別な支援が必要な子どもたちの教育的ニーズに応えるよう体制を整えています。

本校では、児童・生徒のニーズの把握と支援の共通理解のもと、教員の指導体制の共有や事業所等との連携をしています。必要に応じて、教育相談や精神科医、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる相談日を設定し、保護者や教員の児童・生徒理解と支援に役立てています。

附属幼稚園・小学校・中学校では、巡回相談や特別な支援が必要な幼児や児童生徒の支援業務、特別支援教育に関わる研修のサポートを実施しています。

地域では、唐崎学区や大津市内、湖南地域の学校園への訪問や巡回相談の取り組み、特別支援教育に関する研修会の依頼に対して講師派遣をしています。また、夏季休業中には、県内の教職員の研修の場として、本校教員が日頃の実践などを話題提供する実践ワークショップを開催しています。

9. チャレンジプランについて

本校のチャレンジプランは、個別の教育計画（個別の教育支援計画・個別の指導計画）および個別の移行支援計画と通知表を併せて作成したものです。

個別の教育計画では、一人の子どもについて就学から卒業までを長期的にとらえ、医療、福祉などの様々な分野と連携をしながら、子どもたちの実態や課題を明らかにし、手だてを共有することで日々の生活にいかしています。また、個別の移行支援計画では、進路に関わる懇談会の内容、実習の様子や課題などを蓄積することで、卒業後の進路や地域生活への移行をスムーズに行えるようにしています。

作成にあたっては、家庭訪問や懇談会で話し合った子どもの様子や課題を明文化して、保護者の方と確認しています。それにより保護者の方と子どもの課題や手だてをより確かに共有し、共に学びを見つめていきたいと考えています。

10. 進路指導・支援

(1) 小学部

- ①社会参加につながる力を以下のように捉え、日々の活動に取り組んでいます。
- a. 身の周りのことは自分でできる力
 - b. からだづくりを通して、多少のことでも耐えられる体力、初めてのこと、苦手なことにも挑戦できる力
 - c. 遊びを楽しむ力、遊びを通して人や物に関われる力

②子ども個々の適性に合わせて進路を考える（保護者と共に）

小学部段階では、子どもの様子や特性を的確に捉え、日々の実践を積み重ねていきながら、同時に高等部卒業後の進路も考えていくことが大切になります。そのため、中学部、高等部について知ることや卒業生の社会に出てからの様子、学校や事業所、施設の情報を提供しています。

(2) 中学部

「社会人として生活するための基礎的能力を養う」こと、そのために仲間とのつながりを重視した取り組みを展開しています。特に中学3年時は、義務教育終了の節目に自分を見つめ、将来の自分について考える機会を設けています。

《基本的な考え方・取り組み》

- ・義務教育終了をひとつの節と考えた進路指導を行う。
- ・3年生は、事業所での職場体験や高等部での体験学習を行い、将来の自分の姿をイメージできるようにする。
- ・進路決定に向けての情報提供に努める。

(3) 高等部

高等部では、教科「職業」を中心に「働く」ことの意義について理解するとともに、職業生活に必要な能力を高め、実践的な態度を育てています。

①「職業生活、社会生活に向かえる力」を育てる

高等部では、職業生活、社会生活体験の積み上げをはかるため、学年を基盤として産業現場等における実習（以下、現場実習）に取り組んでいます。また、現場実習で見えてきた課題を日々の学習にフィードバックしながら、次の現場実習へ向けての準備をしています。このサイクルを積み重ねながら、卒業後の職業生活や社会生活へ向かう力を高めています。

②家庭生活を支える「確かな生活力」

自立した生活の基礎的な力を育てるために、にじの家を利用した生活訓練合宿を実施しています。簡単な買い物や調理、洗濯等がひとりですることができることをねらいとして、各教科の学習も連動させながら計画的に取り組んでいます。

③進路を主体的に考え、決定するための支援

生徒が自らの進路を主体的に考え、よりよい選択ができるように、本人の希望、学校生活や実習での様子などを踏まえ、保護者と学校が進路懇談を実施しています。また、関係機関との連携も図りながら、将来の生活全般についても一緒に考えています。

11. ICT 活用

情報教育委員会では、文科省「教育の情報化に関する手引き」に基づき、各種情報端末(タブレット等)を用い、効果的な活用に取り組んでいます。

本校でも「GIGA スクール構想」でタブレット PC が整備されました。これまでの教育実践と組み合わせることで、一人ひとりにより効果的な学習環境を実現していきます。

また、生徒の情報活用能力育成には、教員のリテラシー向上が必須であるとの研究成果を得、教員研修にも積極的に取り組んでいます。

12. 学校保健

本校の児童生徒は、それぞれ何らかの健康課題を有しますが、学校生活全般を通して「生涯を通じて健康的な生活を送ること」をめざし、基本的な生活習慣の確立と心身の自己管理ができるような支援に努めています。

また、言葉を通して自分の思いや感情の伝達が難しい児童生徒も在籍していますが、児童生徒が生き生きと学校生活を送れるよう、学級担任による健康観察、保護者との情報交換と情報共有は不可欠であり、保護者との信頼関係の構築に努めています。

併せて、主治医、学校医等とも連携し、学校・保護者・学校医が繋がる学校保健を構築するよう努めています。職員研修も実施し、学校保健の質の向上に努めています。

13. 学校教育を支える諸活動

(1) P T A 活動 - 「幅広く、地道な活動を」 -

本校 P T A は、〔広報部〕〔文化・保体部〕〔進路対策部〕の三つの専門部があり、会長、副会長を中心に県組織や近畿・全国レベルでの各 P T A 諸団体とも交流と連携を図っています。

さらに、自治会や学区の組織などとも連携を図っているほか、全国に目を向けつつ、地域に根ざした P T A 活動にしていくことが特別支援教育を広くみんなのものにしていくことになると考えています。

(2) 同窓会活動「びわの会」- 生涯にわたる援助を -

本会は、「滋賀県手をつなぐ育成会」の学校組織として昭和 47 年に発足しました。当時はまだ養護学校になっていませんでしたが、親たちがともに手をつなぎ、子どもたちのために様々な活動を展開してきました。

そして平成 9 年度より、附属特別支援学校単独の卒業生支援の会 - 同窓会「びわの会」- として新たに発足をしました。名称は変わってもその精神・目的は「親の会」発足当時そのままの流れを受け継いでいます。

